

『通いの場』通信

Vol.18

令和2年8月19日発行

新型コロナウイルスの影響で、これまで地域で行われていたサロンや、健康づくり、被災者支援の活動など、様々な取り組みが、新しい方法を求められています。コロナ禍での支え合い活動を紹介します。



トピック
その1

令和2年7月から生活支援コーディネーターが6名に増員しました！

地域の困りごと、こんな活動があったらいいな、コロナ禍での通いの場をどうしよう…などなど地域の通いの場、支え合い活動をより強力に支援するために、倉敷市の生活支援コーディネーターは7月から1名増員し、**6名体制**となりました！担当地区のコーディネーターにぜひご気軽にお声掛けください！

児島エリア
&天城、茶屋町
担当：水野

真備エリア
&船穂
担当：山本

倉敷全域
担当：松岡

倉敷エリア
新加入！
担当：長沢

玉島エリア
&帯江、豊洲
担当：松本

水島エリア
&中島、西阿知
担当：阪本

生活支援コーディネーター
☎086-434-3301（倉敷市社会福祉協議会 地域福祉課）

トピック
その2

被災地のつながり支援や、それぞれの復興に向かう気持ちをサポートするために「復興支援コーディネーター」が配置されました！

交流支援

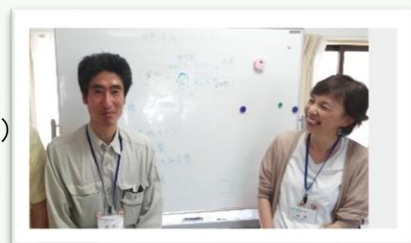


相談支援



活動支援

漆原です
(うるしばら)



田淵です
(たぶち)

復興支援コーディネーターは、被災地でのつながりづくりや居場所づくり、仕組みづくりを支援するために配置されました。定期的に行っている仮設団地の集会所を活用したサロンや、復興に向けた活動の支援を行っています。

復興支援コーディネーター（担当：田淵・漆原）
☎086-698-4883（倉敷市社会福祉協議会真備事務所）

※8月9日に開催した『第6回支え合いまちづくりフォーラム』の情報は、裏面に掲載しています！

第6回支え合いのまちづくり フォーラムが開催されました



感染症対策の実施



手作りマスク
大展示会

これまでの集い方が急に出来なくなってしまうコロナ禍…。

それでも地域では気持ちをつなぐための工夫や、新しい生活様式を取り入れながら、つながりを切らさない支え合い活動が行われています。

基調講演

「あたらしい生活様式と
あなたらしい”つながり”様式」

地域の歴史の中で、御大師講や田植えの結などが習慣の中に根付いていた。集うということが知り合い、つながり、支え合う関係になれる。コロナ禍での不安が募る中、これまでの関係性を活かし、地域ごとのつながり様式を見つけることが大切！

活動発表

1 盛春会



大島会館を拠点に、10種類の同好会を行い、手芸・俳句・おしゃべり・ウォーキングなど、幅広い活動を実施。コロナウイルスが流行してからは、マスクの着用や道具の消毒などの感染防止をして活動している。会館に行けば毎日誰かがいるので、お互いの暮らしが自然に通っている。盛り上がる内容を考えるのも気楽に、楽しみながらやっている。

2 千鳥団地自治会



千鳥団地は築50年以上で高齢者が多いが、集会所を活用して世代間が交流するイベントの実施や、集うことでの困りごとの把握が出来ている。一人の困りごとをみんなの困りごととして考え、高齢で支援が必要になってもなじみの関係があるから寄り添い合い、生活支援の仕組みづくりが進んでいる。

3 サロンサカツ・酒津ゲンキサロン



同じ地区で暮らす仲間だから、個人情報オープンにして語り、サロンを通じて困ったときはお互いさまの関係を築いてきたが、コロナでサロンを休止中はそれが途絶える心配があった。近況報告や返事も書き込める「つながる回覧」で想いを共有することで、サロン再開時に違和感なく集まれた。

4 中地区げんき会



コロナウイルスの影響で、これまでのような集うための体操が出来なくなったが、大学の先生の協力を得て、現在は講師、メンバーとオンラインでつながり毎週体操を続けている。パソコンやスマホに詳しくない人も、家族や近所の人を上手に借りて、つながることが出来た。オンラインを使うことで、新しいメンバーも増えた！

アンケート



- ・オンラインサロンもやればできるんだな！家族や近所に頼ることで絆が深まる。この時期だからこそ、地域の絆が大事だと思った。
- ・コロナで中止になったものも多いが、考え方によって案外できることもあるのではないかと、これからできることを探して活動を広げたい！
- ・サロンを始めたばかりでコロナ禍になり、不安だったが工夫できることを知った。できることを無理せずやろうと思った。
- ・「新しい生活様式」に合わせるの難しいが、今の時期に「新しいつながり方」を考えることの必要性を実感！

佐藤伸隆先生 まとめ

コロナに限らず、通いの場の危機管理は必要。がんばっている住民をサポートするために、公的なガイドラインの整備も大事になってくる。社協や関係機関の力を上手に借りて欲しい。コロナの影響でたすけあいの必要性を意識する人は増えている。状況に合わせて「変えるもの」と、つながりを切らさないために集まることの本質的な「変えてはいけないもの」を見つめなおそう！

